Vol.5 2013
REPORT

南アルプス市 女性議会

Minami Alps City Woman Assembiy

男女共同参画社会の実現を目指して、女性の視点から提案を行うことで、女性の市政への参画を積極的に推進し、多くの市民が市政やまちづくりについて一層関心を深める機会とすることを目的に、平成25年度南アルプス市女性議会が、平成25年11月16日(土)に開催されました。「あやめホール」を会場に、公募者を含め、各地区女性団体連絡協議会から推薦を受けた19名の女性議員が市政の一般質問を行いました。市長をはじめ、市の執行部の答弁等の内容について次のとおり報告いたします。

南アルプス市女性団体連絡協議会会長
鶴田 美津枝さん

元教員。青少年育成や男女協働参画など、様々なジャンルで南アルプス市の発展に尽力を尽くす。現在、孫育てに奮闘中！

南アルプス市女性団体連絡協議会会長あいさつ

第５回南アルプス市女性議会が、11月16日無事に終わりました。

議員全員による学習会では、質問内容についての研究に真摯に取り組み、回を重ねる毎に白熱した議論がなされ、自主学習会も何回か行なわれ、それらが自信となり、本番でのすばらしい質問と提言に結びついたのだと確信しています。

中込市長からは、市政のビジョンを具体的に熱く語って頂き、その実現にむけて、私たちも“協働のまちづくり”の更なる努力を、それぞれの地域で実行したいとの思いを強く心に刻みました。

男女共同参画社会実現の為、女性議会がこれからもしっかり継続され、女性の市政参画の原動力となることを心より期待しています。

この度の女性議会開催に当たり、市当局の皆様、市議会の皆様の力強いご支援ご協力に心より厚く感謝申し上げます。

一日議長
清水　久子さん

市女性団体連絡協議会相談役。百々で立ち上げたふれあいサロンは、高齢者の情報交換や体操教室の開催など地域交流の場となれるよう奮闘中。

議長あいさつ

平成25年度南アルプス市公開女性議会が、市当局の皆様のご協力を頂きまして開催することができ、議長としての大役を果たすことができましたことを、心より深く感謝申しあげます。

今回の議会では、19名の女性議員により、女性の目線を通したきめ細やかな質問と提言をさせていただきました。

これらの提言を市政に反映していただき、協働のまちづくりへの一役を担うことができれば幸いに思います。

市からのご回答を頂く中で、女性としての今後取り組まなければならない問題点等が明確になり、今後、問題点への取り組みを組織化し、ますます女性団体連絡協議会の活動が、地域の皆様と共に活力あるまちづくりのために貢献できますようご指導ご協力をお願いいたします。

Q1

今澤 ひろ子さん

着物乃塩田に勤務。今回唯一の20代女性議員で、第2次南アルプス市総合計画審議会に公募委員として参加するなど、若者の地域活動やまちづくりに積極的に関わる。

若者の地域振興活動に対して、市はどのように考えているか。若い世代と行政が一体となったまちづくりや地域振興活動を活発にするために、若者の活動への支援体制、窓口を設ける等の具体的な考えは。

A

若者の地域振興活動とは、「まちづくり」の活動である。どんどん若者のご意見をいただき、これに取り組んでいただきたいし、それを支援していきたい。将来を担う若者の皆さんのまちづくり活動について、積極的に応援していきたい。

若者が「まちづくり」に関して学ぶ「場」や、行政と一体となって、まちの将来像についての考えを深める「機会」、またそれらの「窓口」は、前向きに検討していきたい。

皆さんのお考えを具体的にお聞かせいただき、一緒に考え、そして進めていきたい。

【関連質問】

松本 祐里子さん

北岳山荘での勤務経験もあるほどの山好きが高じ、芦安へ移り住む。3人の母。現在、夫と娘の3人暮らし。

6次化拠点施設から芦安への観光ルートの開設と観光をきっかけとした芦安地区の人口減少対策について、市の考えは。

A

6次化拠点と芦安への観光ルートの開設は、ぜひ取り組みたいテーマである。

観光産業を振興し、人口増加につなげていくことは、その地域ならではの個性をつくることが重要である。芦安地域の観光がお客さまからどのようなイメージに見えるとよいのか、地域資源を強みに誰が主体となって、どんな観光商品を提供し、お客さまを迎えてくださるのか、これからの取り組みの形を明らかにしていくことが必要である。

Q2

齊藤 みや子さん

普段はご主人とさくらんぼや桃、すもも、ぶどうなどフルーツの栽培を行っている。1番の楽しみは、県外に住む子どもたちと6人の孫が遊びに来ること。

万が一のときに備えて、ハザードマップを使っての講習会や勉強会等を行い、それを元に各地区に見合った避難訓練を行うことについて、どのように考えているか。防災方針を決定する場に、男女が共に関わっているのか、現状と今後の取り組みについて、市長の考えは。

A

地域において、ハザードマップ等をもとに、自主防災会を中心に、防災マップづくりや、各地区に見合った避難訓練が望まれる。今年度、市では防災リーダーを養成する講習会を開催した。自主防災会長を中心に防災リーダーが補佐をして、自分たちの地域は自分たちで守るという、有事に備えた措置づくりに向けて、地域で改めて取り組んでいただきたい。

防災方針を決定する場である南アルプス市防災会議の委員は29名である。行政職員を除くと、14名のうち5名が女性である。

災害に強い社会の構築には男女共同社会の実現が、なお一層、不可欠であると考えているので、強く推し進めていきたい。

【関連質問】

土屋　茂子さん

パート職員。櫛形地区愛育会の会長を務め、4月から顧問に就任。これからなにか新しい事をはじめたいと試行錯誤中！

災害時の長い避難所運営には、女性の視点を生かした女性団体の活用が有効と考えるが、既存の女性団体と協働、連携するため、今後どのように取り組んでいくのか。

A

災害時における避難所運営には、あらゆる世代や災害時要支援者の視点に配慮した運営が必要となる。

避難所における指導者等に女性に参画していただき、女性や子ども、また高齢者や障がい者等の意見を踏まえての協働による避難所運営が必要である。

地域防災力の強化を図るため、地域における各種団体や女性団体等による災害時への話し合いや講習会、訓練等の機会をより多く開催し、多くの皆さまに関わっていただきたい。

【関連質問】

保坂 ミサ子さん

10年以上、市内の学童保育へ勤務し、現在は専業主婦。仲の良い友人と週２回の卓球やフルーツの栽培などを楽しんでいる。

新庁舎建設の防災対策と、各地区旧庁舎等の施設を防災備蓄倉庫として利用することは可能か。

A

庁舎建設の基本構想の案がまとまり次第、新庁舎の防災設備等について、検討していきたい。

また、各地区の旧庁舎等の施設を防災備蓄倉庫として活用することは、支所窓口センターの機能等の検討と併せて、これから協議していきたい。

Q3

内田　秀子さん

市の高齢者支援に携わりつつ、地域の公民館を利用したコミュニティーカフェを自主的に立ち上げる。幅広い年齢の方の交流の場作りを行っている。

介護予防サービスは継続性が重要であるが、今後どのような体制で「生きがい活動支援通所事業」を行っていくのか、市の考えは。
要支援者、２次予防対象者への支援事業の進め方について、取り組みや考えは。

A

切れ目のない総合的なサービス提供とし、介護保険法改正で創設された介護予防・日常生活支援総合事業に移行していきたい。今後、６期の介護保険事業計画を策定する中で検討していきたい。

通所型介護予防事業（コミュニティーカフェ）は「しゃきょんの家下町」で９月１日から社会福祉協議会に委託し、「楽しい輪・鏡中條」が 11 月 1 日から、内田議員さんを中心にボランティアグループにより支援事業を実施している。

今後は、利用者状況や地域の状況、効果を見ながら、積極的に増やしていきたい。

【関連質問】

深澤 惠美子さん

主婦。家では家庭菜園を楽しむ傍ら、子どもや高齢者に折り紙を届ける折り紙ボランティアとしても 12 年活動している。

コミュニティバスの廃止などで、公共交通機関が少ない山間地帯の独り暮らしの高齢者に対して、市では「タクシー代一部補助」や市から業者にお願いして「移動販売」などを検討する考えはあるか。

A

本市ではタクシー代一部の助成については考えていないが、日常生活上の支援が必要な 65 歳以上の在宅の１人暮らしの高齢者等に生活支援員を派遣し、買い物等の支援を行っているので、この事業を利用していただきたい。

民間業者の移動販売車が、芦安地区では週２回、櫛形地区の中山間地域においても巡回をしているので、これらを活用していただきたい。

Q4

清水　春美さん

事務職。両親、夫、子ども２人と６人家族。地域の愛育会副会長の就任時には、地域で行う講演会など様々な企画に携わってきた。

胃がんの 90 パーセント以上の原因となっているピロリ菌の感染を減少するため、ピロリ菌検査の導入に取り組む考えはあるか。

A

ピロリ菌による感染と胃がんの発症による因果関係があることは、国の研究により明らかであるが、従来の血液検査によるピロリ菌の検出が胃がん検診に代えられるという確証を国において得られていない。また、ピロリ菌検査を集団健診の中に導入する基準等も整えられていないのが現状である。

今後は胃がん検診のみならず、よりよい検診の実施に向けて検討していきたい。

【関連質問】

清水　幸江さん

立ち上げから 20 年以上日赤の活動を続け、防災や福祉などの活動を通し地域をサポートしてきた。介護中の母と夫、3人暮らし。

本市では、高齢者肺炎球菌ワクチンの助成対象が 80 歳以上となっているが、65 歳以上に拡大する考えは。また、申請手続きについて、助成券を郵送する等の簡素化手段の考えは。

A

対象年代や年齢の拡大は、今後、市内の医師会と協議をしながら検討していきたい。

高齢者肺炎球菌ワクチンの予防は任意接種のため、申請していただくことが基本となる。このため、前もって助成券を郵送することはできない状況である。

【関連質問】

富岡　通予さん

パート職員。現在は小学５年生の子どもと遊んだり、お菓子作りを楽しんだりと、子育て真っ最中。東京都出身。

すでに韮崎市、笛吹市、上野原市などで、中学３年生まで医療費窓口無料化が拡大しているが、市の無料化拡大は実現されるか。

A

市民団体による署名活動が行われたり、市議会の中でも度々の質問もあり、先の９月の議会でも「本市としましては、当面は現状維持とし、今後さまざまな計画を策定する中で、改めて検討する」とお答えした。

市でも、子育てに関する多様なニーズを把握し、新しい計画に反映したいと考えているので、ご家庭においても、再度、家族の絆を見直していただき、家庭を基盤にした子どもたちの健全な育成に取り組んでいただきたい。

Q5

米山 よし江さん

市内学童保育に勤務。地域の愛育会としても活動し、企画した映画「うまれる」上映会では 100 名以上の参加が集まり大盛況を収めた。

「命を大切にできる自立した人間の育成を、地域ぐるみでとりくむ」ということを考えたとき、小笠原流の教育導入にくわえて、「生命（いのち）の授業」などの地域をつなぐ事業の創設について、市長の考えは。
核家族化が進んでいる現在、放課後児童クラブに来る子どもは日々増えている現状をふまえ、子どものおかれている環境について、「人を育む」観点からの市長の考えは。

A

「生命（いのち）を大切にする」取り組みは、いつの時代も、またどこの地域でも大切にしていくべきである。そのために、市内全小中学校で「地域ふれあい道徳教育推進事業」を行い、豊かな心・望ましい人間関係の育成に努めている。さらに、新規事業として市内全小中学校で「小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」を行い、小笠原流礼法の師範を各校に派遣している。

現在、「人づくり」という点では、人間関係の希薄化等、さまざまな問題点があげられる。これからの未来を担う子どもたちを教育するために、学校教育を充実していく中で地域に誇りを感じ、自然を愛し、何事にもたくましく挑戦し続ける若者の育成を目指していきたい。

【関連質問】

芦沢　瑛子さん

主婦。繁忙期には夫のさくらんぼ農園やあんぽ柿作り作業の手伝いしている。3年前からは、地域のボカシ作りの会を引き継ぎ活動中。

「生命（いのち）の授業」の重要性を再認識するなかで、事業創設と予算化について、市の考えは。

A　「生命（いのち）の授業」は、現在、新規事業として取り入れた「小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」を市内の全小中学校に定着させていくことを第一に考え、改めて事業の創設と予算化については、現在のところ考えてはいない。

【関連質問】

中沢　民子さん

農業を営む。長年、介護・子育てに奮闘し、現在は女性連合協議会や福祉活動など地域役もアクティブにこなす。

市健康福祉センターは、数多くの事業が行われているが、駐車スペースが少なく駐車場の確保に悩まされている。センター近くの用地を駐車場として確保することができるのか、市の考えは。

A　公共施設再配置を踏まえる中、敷地内にある旧峡西情報センター等を含め、公共施設の整備・統廃合により、駐車場の確保を検討していきたい。

Q6

井上　伸子さん

会社員。夫の両親、夫、3人の子どもの7人家族。早川町から甲府に移り住んだ後、南アルプス市に嫁ぐ。趣味はガーデニング。

国が配布したアレルギー対応のガイドライン活用方法と、教職員がエピペンを注射するための環境整備について、現状と今後の取り組みは。

A　アレルギー対応は、「学校アレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」および「学校におけるアレルギー疾患対応マニュアル」に基づいている。食物アレルギー等のある児童生徒等に対しては、校長・学級担任・養護教諭・栄養士等による指導体制を整備し、保護者等と連携を図り、可能な限り、除去食・代替食等の対応をしている。

エピペンを注射するための環境整備は、校内アレルギー疾患対策委員会を設け、情報の交換を行っている。

また、消防署に情報提供を行い、不測の事態に対応できるよう、連絡体制を整えている。

アドレナリン自己注射薬を処方されている児童がいる学校では、研修を実施した。また、今年8月に市内すべての小中学校が参加し実技講習を受けた。今後、必要であれば、定期的な研修会の開催も検討していきたい。

【関連質問】

荻野 百合子さん

元・社会福祉協議会職員。ハーモニープラン推進会議の会長を2年勤め上げる。最近の楽しみは、友人らと集う地元ボーリングクラブでの活動。

学校給食において、給食センターにアレルギー児童・生徒用の専用スペースの確保がされているか。

A　現状では、限られたスペースの中で完全な対応は難しい状況にあるが、できる限りの対応を行っている。白根・八田学校給食センターでは、アレルギー対応の栄養士と調理員を置き、対応している。

また、若草給食センターや学校給食施設では、栄養士が除去食や代替食を提供している。

現在、建設に向けて準備を進めている新給食センターでは、アレルギー対応食を調理できる専用のスペースを備えた施設の計画を進めている。

今後、よりよいアレルギー対応を行っていくために、施設や人的な配置をどうすればよいのか、学校関係者を含めて検討していきたい。

Q7

長沼　晴美さん

ピアノ講師として子どもから大人まで生徒を教える傍ら、小学校での読み聞かせや障がい児の学習支援など地域の子どもたちの育成や支援に関わる。

読み聞かせなどの教育ボランティアを広めるために何か取り組みなどがあるか。特別支援学級に通う児童を支援する市の現状はどうか。

A

市としては「南アルプス市学校応援団育成事業」を行っている。

この事業は南アルプス市の７つの中学校区に学校応援団を組織し、保護者・地域住民にボランティア登録をしていただき、学校の要請に合わせて実際の教育現場でご協力をいただいている。

毎年２月に「南アルプス市学校応援団活動報告会」を行っており、この事業を多くの人に広めたいと考えている。

現在、市内の小中学校には、市の予算の中から学習支援を中心に特別支援、少人数学級、複式学級解消等に延べ 34 名の加配教職員を配置している。これだけ教育に厚く配慮している市町村は、山梨県ではあまりない。現状の中の厳しい財政面を考慮すれば、市単教職員を増員することは容易なことではない。

このような点から市単教職員数の維持を最優先に考え、できれば少しでも増員できるような方向性が示せるように努力していきたい。

【関連質問】

齊藤　順子さん

大学非常勤講師として司書を目指す学生に講義をしている。小学校、図書館など市内でおこなっているおはなしの会は年間 100 回以上！

図書館の再配置計画が検討されているが、現在の５館１分館の体制を維持してほしいが考えは。また、市立保育所においても、良質の絵本を常設しておくために、絵本を補充する予算措置の考えは。

A

３月の議会で図書館の再配置計画を提示したが、現在も図書館利用者サービスの向上が図れるかどうか検討を進めている。

絵本を補充する予算は、毎年、保育所ごとに保育教材費 15 万円と、園児１人につき７千円を計上している。その予算から図書の購入に充てており、今後も続けていく考えである。

■平成 25 年度女性議会議員名簿

1. 今澤 ひろ子
2. 松本 祐里子
3. 加賀美 裕子
4. 齊藤 みや子
5. 土屋　茂子
6. 保坂 ミサ子
7. 内田　秀子
8. 深澤 惠美子
9. 鶴田 美津枝
10. 清水　春美
11. 清水　幸江
12. 富岡　通予
13. 米山 よし江
14. 芦沢　瑛子
15. 中沢　民子
16. 井上　伸子
17. 荻野 百合子
18. 長沼　晴美
19. 齊藤　順子
20. 清水　久子

■発行月／平成 26 年３月
■発　行／南アルプス市
■編　集／市民部 みんなでまちづくり推進課

〒400-0395 山梨県南アルプス市小笠原 376 本庁舎 1F
TEL 055-282-1111(代) FAX 055-282-1112(代)
URL http://www.city.minami-alps.yamanashi.jp/